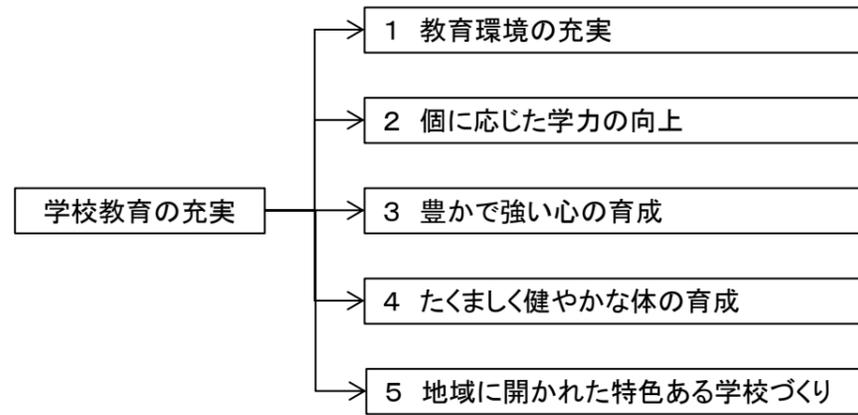


## 施策2 学校教育の充実



### 基本事業1 教育環境の充実

主要事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標		
学校施設整備事業	小学校、中学校(校舎、体育館、プール等) 児童・生徒、教職員	学校施設・設備が安全で快適に利用できる。	小学校12校、中学校8校の校舎・体育館・プールについて、損耗や機能の低下により使用に耐えない状態になった施設等の修繕を行い、学校環境の改善を図る。	修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%	80	72	80	A 概ね適切に対応している。年度当初、各校の修繕要望を踏まえて現地確認を行い、学校からの急な要望に対しても早期対応に努めている。	○ 今後も可能な限り迅速かつ計画的な修繕等に努める。
教育用コンピュータ整備事業	小中学校、児童生徒及び教職員	コンピュータやインターネットを授業で使える。	各小中学校にパソコン及び専用ソフト等の配置とネットワーク環境の維持をリースにて行う。また、新たにタブレット6台をリース契約更新時に計画的に整備する。	校内LANが整備された学校の割合	%	100	100	100	A パソコン・専用ソフトを計画的に更新しているほか、児童生徒・教職員用にタブレットを配置し活用している。	○ 今後も計画的に更新を図る。
教育設備、教材等整備事業	小中学校	授業に必要な教材が揃っている。	学習指導要領に対応した授業に必要な学校図書、義務教育用教材、理科教育等設備を整備する。	①図書充足率 ②理科等備品充足率	①% ②%	①113.5 ②21.5	①113.5 ②24.2	①115.0 ②26.5	A 学校図書、理科等備品教材いずれもH32年度目標値をほぼ達成するレベルまで上がってきている。	○ 今後も計画的に整備を図る。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標	
教育環境の充実	児童生徒 教職員	安全・安心で快適な環境で学ぶことができる。	①小・中学校校舎耐震化率 ②安全情報メールシステム加入率(防災市民メディア推進協議会から取得)	①% ②%	①74.1 ②94.9	②100.0 ②95.0	①100.0 ②100.0	A H28年度をもって、市内小・中学校のうち、国で定める耐震性を有していない学校について、すべて耐震化工事を完了。保護者の間に、安全情報メールの重要性の認識が広がり、加入が進んでいる。

基本事業2 個に応じた学力の向上

主要事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標		
少人数指導事業	30人以上の学級に在籍する児童	きめ細やかな少人数指導を受けることができる。	1学級30人以上の学級を有する小学校に非常勤講師を配置し、児童一人ひとりの実態に応じたきめ細かい指導を施す。	少人数指導時間数(延べ)	時間	7,200	1,200	4,800	B 学力向上や生活面での安定などの成果が得られている。	● 人材の確保や役割の見直し等が必要。
知能検査・学力検査実施事業	児童生徒(小2、小5、中2)	学力の実態を把握してもらう。	本市の児童、生徒の学力水準を診断、分析するとともに、全国、県内との比較をし、学力向上を図る。	検査を受けた対象児童生徒の割合	%	100	100	100	A 対象となる児童生徒が全員受検できた。各校において、検査結果を学力向上に活用している。	● 他調査と関連を図れるよう改善が必要。
特別支援教育支援員配置事業	特別な教育的支援を必要とする児童	生徒の学習適応状況に応じたきめ細やかな指導を受けることができる。	小学校の通常学級に通う、特別な教育的支援等を必要としている児童に、非常勤講師を配置し指導する。	延べ指導日数	日	2,160	2,160	2,160	A 特別支援を要する児童生徒に対し、適切な支援がなされている。	○ 今後も非常勤講師の配置を通じて、きめ細やかな指導を行っていく。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標	
個に応じた学力の向上	児童生徒	基礎・基本及び活用に関する学力が身についている。	①標準学力テスト全国偏差値(小5国語)の全国平均比率(数研式標準学力検査)	①%	①53.4	①55.2	①54.0	A 小学校は、小5国語、小5算数とも目標値を上回った。中学校は、中2国語についてH27年度実績を上回った。 中2数学について、H27年度実績をやや下回ったが、県の学習定着度調査では、ほぼ同等の結果であり、学力の基礎・基本の定着が図られた。
			②標準学力テスト全国偏差値(小5算数)の全国平均比率(数研式標準学力検査)	②%	②51.8	②54.3	②53.0	
			③標準学力テスト全国偏差値(中2国語)の全国平均比率(数研式標準学力検査)	③%	③50.8	③51.3	③52.5	
			④標準学力テスト全国偏差値(中2数学)の全国平均比率(数研式標準学力検査)	④%	④49.6	④49.0	④51.0	

基本事業3 豊かで強い心の育成

主要事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標		
教育相談員配置事業	児童生徒	心のケアにより、問題行動の原因を取り除いてもらう。	学校と家庭との連携を図りながら、不登校をはじめ問題行動のある児童生徒に対し、専門的な立場から指導、助言する。	不登校の割合	%	0.6	0.68	0.09	A 教育相談や適応指導教室が有効に機能し、問題解決の一助となっている。	● 個に応じた教材教具等の整備、教育相談員の研修機会の拡充を図る。
緊急スクールカウンセラー等派遣事業	児童生徒及び市内小中学校	児童生徒が抱える不安を払拭してもらい、また、学校全体の情報発信スキルが向上される。	必要に応じてスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーの派遣を行う。また、学校広報活動を委託事業で支援する。	①個別に相談を受けた児童生徒数 ②情報発信支援を受けた学校数	①人 ②校	①0 ②0	①428 ②5	①430 ②5	A 計画的に学校を訪問しカウンセリングを実施している。問題を抱える児童生徒に対するアドバイザーとしても大きな役割を果たしている。	○ 現在の体制を継続
児童乳幼児ふれあい交流促進事業	高学年の児童	命の尊さや家族の意義を感得してもらい。	新生児見学や赤ちゃん抱っこ体験等を通じて命の尊さを学習する。	①参加児童数 ②参加した児童の割合	①人 ②%	①361 ②61.7	①289 ②52.7	①266 ②54.1	A 乳幼児とのふれあいを通じ、児童が家族との絆や命の尊さを考えるきっかけとなっている。	○ 現在の取組を継続



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標	
豊かで強い心の育成	児童生徒	命を大切にし、他人を思いやる心豊かな人間性を育てる。	①「人の役に立つ人間になりたい」と答えた児童の割合(全国学力・学習状況調査) ②「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合(全国学力・学習状況調査) ③不登校児童の割合 ④不登校生徒の割合	①% ②% ③% ④%	①94.7 ②96.8 ③0.19 ④1.79	①94.3 ②95.0 ③0.06 ④1.73	①98.0 ②98.0 ③0.14 ④1.40	A 不登校の出現率は、県と比較して低く、各学校の取組や心の教室相談員、スクールカウンセラー等の配置事業などの効果が表れている。 心豊かな人間性の醸成については、震災以降に各学校において、「命の大切さ」、「人とのかかわり」を明確に復興教育計画に位置づけ、継続して取り組み、成果を上げている。

基本事業4 たくましく健やかな体の育成

主要事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標		
児童生徒各種健康診断事業	児童生徒	心身ともに健康で学校生活を送ることができる。	児童生徒の適正な健康管理のため、各学校に学校医等を配置し、各種健康診断を実施する。	市立小中学校児童生徒受診率	%	100	100	100	A 適切な時期、内容にて計画的に健康診断を実施している。	○ 現状の内容で継続
学校給食事業	児童生徒	安全でおいしく、栄養バランスのよい学校給食が提供される。	市内の共同調理場5か所(大船渡、大船渡北、末崎、綾里学校給食共同調理場、北部学校給食センター)にて学校給食を調理し各校に提供する。	栄養摂取量	%	100	100	100	A 安全・安心な給食を提供するとともに、計画的に食育指導を実施している。	● 調理場の老朽化や少子化の問題があるので、拠点校事業を推進し効率化を図る。



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標	
たくましく健やかな体の育成	児童生徒	健康でたくましく成長する。	①体力・運動能力検査(小5)費平均点(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)  ②体力・運動能力検査(中2)費平均点(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	①点  ②点	①男54.12 女55.56  ②男44.54 女48.51	②男55.10 女55.70  ②男44.37 女49.12	男女とも 52.0  男女とも 51.0	A 小中学校ともに、震災以降、創意工夫しながら運動時間の確保に努めており、一定の成果を上げている。 中学校については、運動部以外の生徒の体力低下が懸念される所であり、今後改善が必要である。

基本事業5 地域に開かれた特色ある学校づくり

主要事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標		
学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(学校支援事業)	市内小中学校	スクールガード配置により、登下校時の安全を確保する 地域コーディネーターの配置により、地域ボランティアによる学校支援活動を図る	スクールガード配置事業、学校支援地域本部事業、事業評価検証委員会の開催。 希望する市内各小中学校にスクールガード、地域コーディネーターを配置し、登下校時の児童生徒の安全確保と、地域ボランティアによる学校支援活動を行う。	①スクールガード配置校数 ②学校支援活動実施校数	①校 ②校	①9 ②0	①13 ②1	①13 ②5	A スクールガードの巡回により、登下校時の安全が確保されている。 地域コーディネーターについては、必要な人材の確保に至らなかったが、地域ボランティアの確保により学校のニーズを満たすことができた。	○ 現行体制の継続
「総合的な学習の時間」推進事業	児童生徒	生きる力を培い、自ら考える力を育成する	「総合的な学習の時間」における各学校が展開する体験学習に外部講師を招聘する。	①体験学習を実施した回数 ②児童生徒1人あたりの体験学習回数	①回 ②回	①103 ②0.04	①89 ②0.04	①100 ②0.04	A 外部講師を活用し、体験を通して実感を伴った学習がなされている。	○ 現行の踏襲



基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	H27実績	H28実績	H32目標	
地域に開かれた特色ある学校づくり	小中学校	家庭や地域に学校教育活動への参加、協力を促す。	①「学校を中心に地域と協力して教育が行われている」と答えた市民の割合(市民意識調査) ②学校生活の様子を地域住民に伝える取組をしている学校の割合(各校の校報発行割合)	①% ②%	①37.9 ②100.0	①33.5 ②100.0	①50.0 ②100.0	A 各学校では校報の発行及び授業の公開等、家庭・地域に学校の様子を伝える取組を推進している。 さらには、各行事において保護者はもとより、地域住民の協力を仰ぐなど、家庭・地域との連携・協働による教育の推進に努めている。

□総括

施策名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	H27実績	H28実績		H32目標
学校教育の充実	市内小・中学校の児童生徒	「知・徳・体」の調和が図られ、人間性豊かに成長する。	①「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合(全国学力・学習状況調査)	①%	①83.9	①85.8	①85.0	<p>A</p> <p>学力調査や運動能力調査等の結果を各学校において分析し、それをもとにPDCAサイクル<sup>※</sup>による教育実践を進めることで、学力及び体力の向上において一定の成果を上げている。</p> <p>また、相談員やスクールカウンセラーの継続的な配置により、各学校での積極的な活用が図られるとともに、児童生徒の心の安定の一助となっている。</p> <p>さらには、校舎の耐震化工事が終了し、安心して学校生活を過ごせるための環境が構築されている。</p> <p>学力・学習状況調査の結果は、小学校で目標値を上回り、高い実績となった。中学校については決して低い数値ではないが、平成27年度の値をやや下回った。中学生は、様々な問題を抱えやすい時期であることから、学習・生活の両面において、継続してサポートに努める必要がある。</p> <p>※PDCAサイクルとは、業務を継続的に改善していく手法の一つPlan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の4つの頭文字をとったもの。</p>
			②「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒の割合(全国学力・学習状況調査)	②%	②84.7	②83.0	②85.0	

<課題>

- ・県が配置している復興加配教員やスクールカウンセラーの削減を踏まえた、教員の負担軽減策(少人数指導講師の配置基準及び配置人数の見直し等)の検討
- ・スクールカウンセラーによるカウンセリングや教育相談員の相談等へのニーズの高まりを踏まえた、教育相談体制の維持・充実